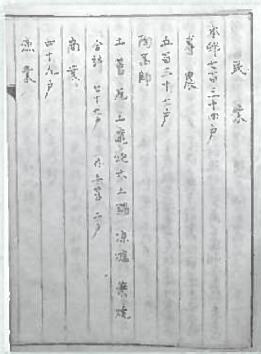


市誌編さんだより Vol.24

市誌編さんの現場から 10

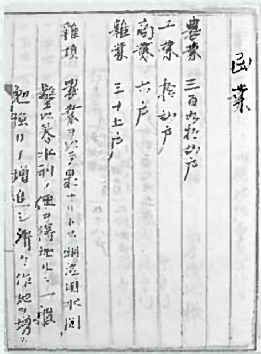
調査のなかで新たに見つかった高浜にまつわる「ヒト・モノ・コト」などの情報を速報として紹介します。今回紹介するものは、これまで発掘された資料のほんの一部です。事業を開始した平成28年度から現在まで、市民の皆さんからも情報をいただき、貴重な発見がたくさんありました。市誌編さんもいよいよ大詰めを迎えています。これからも皆さんの協力をよろしくお願いいたします。

高濱郷地誌草稿



明治12年ごろにはすでに、土管や瓦、日用土器の生産が高浜村を代表する産業として認知されていたようです。

吉濱村村誌材料



農業に従事する人が多く、農閑期には木綿を織って売っているといった情報も書かれています。

今夏いよいよ新編高浜市誌『高浜市のあゆみ』が刊行されます。

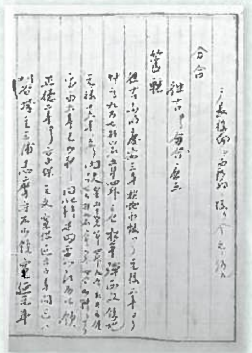
そこで今回の市誌編さんだよりでは、高浜における市誌の変遷を追います。市誌に類する資料が確認されているのは古くは明治時代で、高浜村では明治12年に『高濱郷地誌草稿』が、吉濱村では明治20年に『吉濱村村誌材料』、高取村では『高取村村史』（年代は不明）という資料にそれぞれの地域の沿革や位置、面積や土地、字の名称などがまとめられています。

その後、明治33年には高浜村で町制が施行。高浜町となり明治39年には高浜町と吉濱村、高取村が合併し「高浜町」となりました。その高浜町についてまとめた『高浜町の実態』が昭和26年に、『高浜町の姿』が昭和32年に高浜中学校職員により編集され刊行されました。この同年に高浜町誌編纂委員会が発足し、昭和41年に『高浜町誌』、その10年後の昭和51年に『高浜市誌』を刊行しました。

以降約45年ぶりに発刊されるのが新編高浜市誌『高浜市のあゆみ』です。これまでの市誌では触れられていなかった現代史に注力することや、地域の人びとの語りを残す「聞き書き」など、昭和から現在に至るまでの部分に厚みを持たせることを意識してまとめられています。

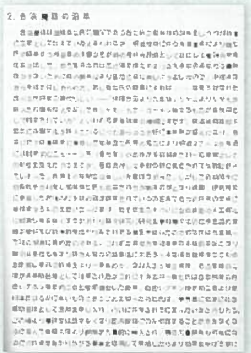
刊行の際にはぜひとも一度手に取ってください。高浜の新たな一面の発見があるはずですよ。

高取村村史



江戸時代の高取村では、時期によって領主が異なっていたことが記録されています。

高浜町の姿



吉浜地区において、加藤弥七という人物が養蠶を産業としてはじめたきっかけなどが書かれています。

◇自宅や地域に、高浜に関する書物、写真、チラシなど(とくに明治時代～昭和)がありましたら、ぜひ情報を寄せてください。
◇市誌編さんに関する内容は、市公式ホームページの「文化スポーツグループ」のページでも紹介しています!

問合せ先 いきいき 文化スポーツグループ ☎52-1111(内線331)